

有できているか、

ヒナとして各疾病

します。現行ワクチンプログラム の清浄性を維持しているかを確認

環境材料を検査します。 カ月毎に糞便・ほこり、 ●全成鶏農場対象

●全育雛場対象

全ロット、

導入

根幹といえます。

浄性を維持・確認しています。

●パック卵の安全性検査

製品卵

を対象に毎月実施しています。

毎月実施。

パック卵製造環境の清

長年の取り組みにより確立さ

ワクチン接種通りに鶏が免疫を保 通りの移行抗体を保有しているか、

【農場のサルモネラ検査】

全ロット、

2

ネラは、

養鶏・鶏卵事業にとって排

します。

大腸菌群数、

サルモネラ等を検査

GPセンターでは、

一般生菌数、

GPセンターでの安全性検査

導入時鶏舎

除されるべき最も重要な因子であ

モニタリング検査はまさにその

卵搬入から製品出荷まで全行程を

●施設内の環境拭き取り検査

随時見直されます。 れているものですが、

状況により

前鶏舎環境材料、

導入ビナ・育成ビ

の糞便・ほこりを検査します。 SEなどの介卵伝達性のサルモ

齢時に実施します。導入時に想定

鶏卵生産グループ農場 ツバサファーム (写真左)、世羅つばき農場 (写真右)



農場でのサンプリング (採材)



クリニックセンター での検査



鶏舎内



全農広島鶏卵株式会社



賞味期限表示を担保しています。

●鶏卵の保存検査 季節毎に実施

県産の商品

全力結集

一連のクリニック検査のほか、

衛生・防疫関連での

果たしています。 防疫や飼養衛生管理基準など衛 西日本分室は鳥インフルエンザ等 会社が参加しています。 力結集」事項といえます 生研究所の連携は、ますます 生関連の情報提供や助言の役割を 室、JA西日本くみあい飼料株式 農ひろしまとクリニック西日本分 まる中、生産・販売部署と家畜衛 ループ農場の定例会議にはJA全 衛生・防疫面に世間の注目が高 クリニック

JA全農ひろしまでは、「安全・安心」を基本姿勢に、グループ の養鶏場で生産された鶏卵を販売しています。それを担保す る手段の1つとして、生産から製造・販売まで統一した衛生管 理体制に取り組むJAクリニック検査についてご紹介します。

JA全農ひろしま・JA全農家畜衛生研究所クリニック西日本分室

ニックセンターに送られ、 るクリニック西日本分室から報告 料はJA全農家畜衛生研究所クリ 出荷まで、全工程で「安全・安心」を れによって、 クリニック検査を行っています。 リニック西日本分室とともにJA 担保する仕組みを構築しています。 として「 各農場・施設で採取された検査材 タとともに、同地域を担当す ヒナの導入から商品の 後日検査 ے

行っており、そのモニタリング手段 化施設は2施設があります(表1)。 農場4法人7農場(計約120万 全農広島鶏卵株式会社で製品化さ 体制で鶏卵事業を行っています。 売まで一貫したインテグレーション を目的に各段階での生産指導を 鶏卵はグループの養鶏場で生産し、 部畜産部鶏卵課)では、 JA全農ひろしまは、 A全農ひろしま(全農広島県本 育雛場は2法人2農場、 グループの養鶏場は成鶏 A全農家畜衛生研究所ク 生産から販 安定運営 製品 生産農場での衛生検査

れます。

表1.グループの各農場・施設

	段階	農場•施設	
	成鶏農場	広島たまご株式会社三次ファーム 世羅つばき農場・世羅つばき第二農場 株式会社世羅ファーム瀬戸原農場 大池農場、株式会社ツバサファーム 農事組合法人小河原養鶏組合	
	育雛場	広島たまご株式会社世羅ファーム育雛センター JA広島市本地育雛センター	
	製品化 施設	全農広島鶏卵株式会社三次GPセンター・世羅GPセンター	

表2. 机体快宜の疾病項日名				
	略号	病名または病原微生物名	主な病害	
	ΙB	伝染性気管支炎	産卵異常、ヒナの死亡	
	MG	マイコプラズマ・ガリセプティカム	産卵異常	
	IC	伝染性コリーザ	産卵異常	
	AE	脳脊髄炎	産卵異常	
	EDS	産卵低下症候群	産卵異常	
	IBD	伝染性ファブリシウス嚢病	ヒナの死亡	
	ND	ニューカッスル病	鶏の死亡(法定伝染病	
	ILT	伝染性喉頭気管炎	鶏の死亡	
	SE	サルモネラ・エンテリティディス	ヒトの食中毒	

行います。 立ち入り、 場合は、獣医師と担当者が農場に 書がフィードバックされます。 れています。 設にタイムリ 速報され、 トが全農ひろしま鶏卵課を通じて 必要に応じて担当獣医師のコメン 担当者から当該農場・施 原因究明と対策指導を 農場で不調があった -に連絡・確認がなさ また

販売まで統一した

鶏卵の生産から

クリニック検査体制

クリニック検査コースの内容

を及ぼす疾病(表2)の抗体検査を 【衛生診断コース】全農場全ロッ なタイミングで選択されます。 行います。各項目はそれぞれ必要 について育成成績・産卵成績に影響

●成鶏農場

各ロットの導入時から

表2 抗休給杏の疾病項日名

50日齢時、 比較する事で、 対策につなげる事ができます。 う際にも、 育雛場 各ロット 70~80日齡時、 の初生導入時、 寿)

開始し、 どに動きがないかどうかを把握し、 常に侵入を警戒すべきIB、 衛生対策に役立てています。 各農場が安定して成績を得るための や鶏の健康状態に変化が生じて行 きている事が重要です。産卵成績 検査は各ロットについて経時的に 平常時の抗体推移を把握で M G な

3カ月毎に実施。 とりわけ それまでの検査結果と 原因究明と的確な 1 2 0 日

ちくさんクラブ21 Vol.135 2021 8 ちくさんクラブ21 Vol.135 2021 8 20